

低コストで効率的な施業の推進について

～地域林業の発展に向けた技術の提供～

留萌北部森林管理署

【現状・課題・目的】

- 当地域から生産される木材を大量消費する木材加工施設が無く大半は上川・宗谷方面で消費されている。
- 地域の民有林においては、集約化が進まず、小規模・分散的な供給体制となっている。
また、原木のとりまとめや需給情報の共有が不足しているため、民国連携した木材の安定供給に向けた仕組みづくりが必要。

【これまでの取り組みや成果】

- 道有林と国有林をロットでまとめて立木販売を行う取り組みとして、振興局と民国一体化図面を作成。伐採箇所や路網の配置状況などから土場の共同利用や路網の連携等、協調出荷に向けた販売の可能性について協議を実施。
今後、近隣地区における同時販売の実施に向けて検討を継続。
- 初山別森林共同施業団地の効果的な活用を図るため、森林整備手法の普及・啓発、路網の共同利用に向けた方策の検討等し平成29年度協定を更新した。

【平成29年度の取組結果・成果】

①木材生産の効率化に向けた現地状況把握

民有林及び国有林の担当者がお互いの作業システムなどの現状を知ることで、今後の木材生産の効率化に向けてどのように取り組んでいくか意見交換を行った。

【民有林の作業システム】

チェーンソー、トラクタ等による従来型作業システム

【国有林の作業システム】

ハーベスター・フォワーダなどの高性能林業機械の活用による効率的な作業システム

②現地検討会の開催

民有林更新伐箇所（天塩町有林）において無人航空機（ドローン）を活用し、空から伐採跡地の状況等を確認し意見交換を行った。

検討した結果については、今後、事業体への指導等に反映させることとなった。

（当日は、ドローン操縦の実技講習も実施）

素材検知については、町からの要望を受け町林務担当職員に対し実地研修を行った。

③工程管理システム説明会の開催

天塩町から「木材生産事業の発注にあたり、簡易な積算方法はないか」との相談を受け、国有林で公開している工程管理システムを活用した作業工程、機械損料等の算出方法について説明を行った。町では、30年度以降、事業発注の際に活用を検討。

天塩町有林作業現場の視察



ドローンを用いた現地調査



工程管理システム説明会



【今後の取り組みで目指すところ】

留萌北部地域の民有林の多くは、造林・保育による資源の造成期から本格的な資源の利用期を迎えようとしているが、これまで林業活動の主体が育林作業であり、生産・販売事業に関する実績が少なく事業の推進に苦慮している。

こうした状況下において、民有林ではこれまで育ててきた森林からどのように収益を上げるか検討をはじめており、国有林としても工程管理や木材販売などの技術ノウハウを積極的に提供していくこととしている。

次年度については、遠別町において実施予定。

【今後の目標】

- 儲かる林業を目に見える形にすることで、町村担当者、地域の民有林所有者等に間伐等森林整備への意欲向上を図る。